

03 SDGsと詩作、交流で培った視点

尊敬する詩人はまど・みちおさんです。
まど・みちおさんの詩は日常の小さな生き物や
自然に対して素朴な温かみのある表現を用いた
生き生きとした生命力のある表現が特徴的
で、それがとても魅力であると感じています。

慶應義塾SDGs会議に参加したときに撮影



O.K.さん

第65回全国学芸サイエンスコン

クール 詩部門金賞(2021)

第67回全国学芸サイエンスコン

クール 詩部門入選(2023)

Q/ どのような詩（ジャンルやテーマなど）
を書いていますか。

A/ 私は中等部の時から慶應義塾SDGs会議に参加しています。そのため、詩のテーマは気候変動について書いています。受賞した詩では、人間社会とその行為が自然環境に及ぼす弊害を対比で表現しました。



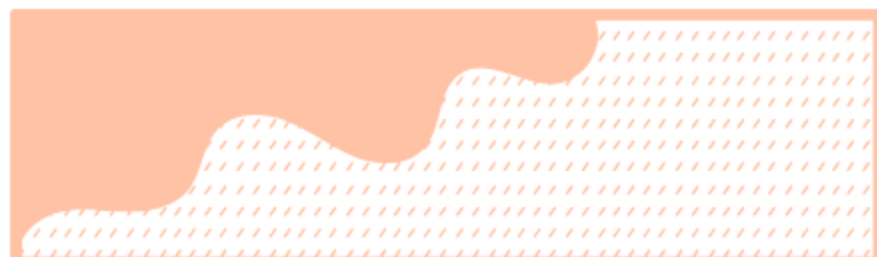
Q/ 詩を書こうとしたきっかけは
何ですか。

A/ 初めて詩を書いたのは中学一年生のときです。コロナ禍で学校がなかったのも、たまたま新聞で学芸サイエンスコンクールの募集を目にし、応募したことがきっかけです。時間があつた中学一年生のときには、詩と作文両方に応募し、幸運なことに、両部門で受賞しました。

Q/ 詩を書くときに意識していることは
なんですか。

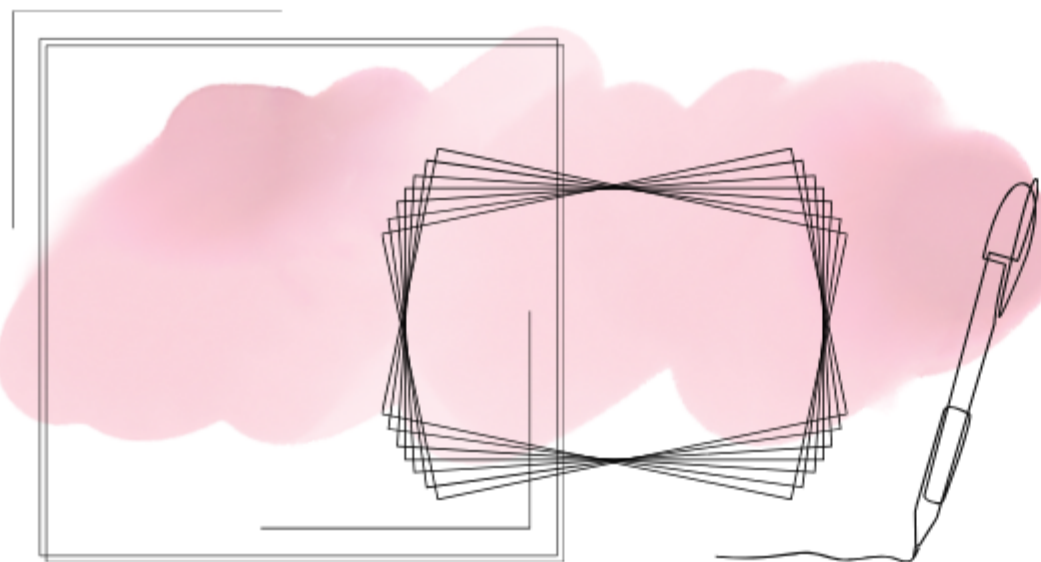
A/ 私が詩を描くときに意識している技法は大きく2つあります。

1つ目は擬人法です。地球温暖化をテーマについて書く際に、人間からの視点ではなく、動物や植物などの目線から描くことを心がけています。普段人間が持つ視点とのずれを描き出すことで、人々に地球環境がどれほど深刻化しているのかを思い知らせる表現になるように意識して描いています。



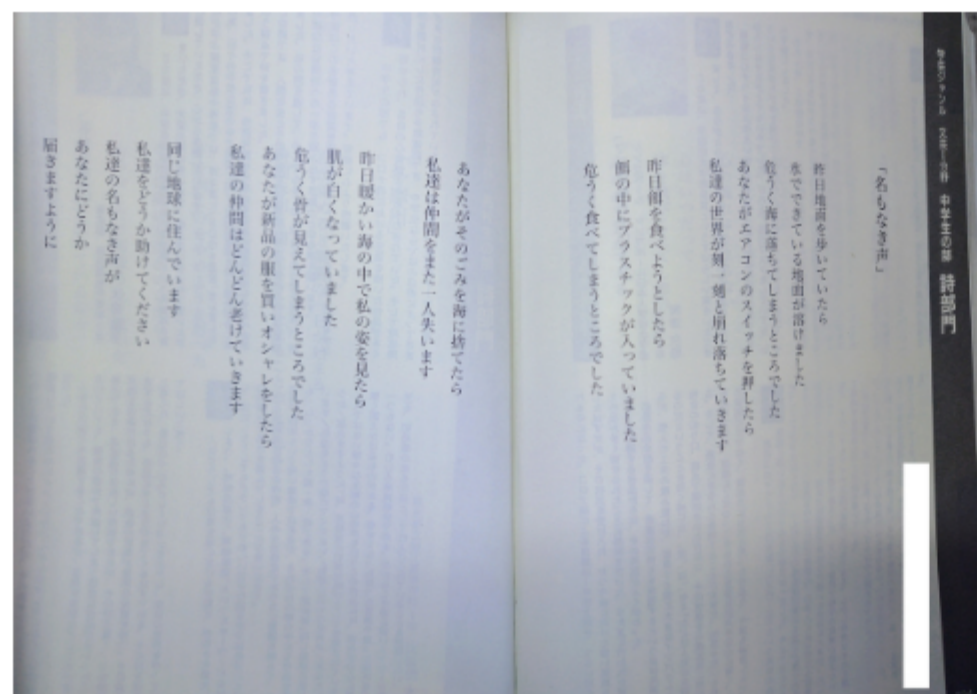
二つ目は、対句法や反復法を多用することです。同じ生き物であるのに立場ゆえの生き方の違いを表現するために対句法や反復法を利用します。そうすることで、世界観の相違を鮮明に描き出すよう工夫しています。短い詩の中でも、心に響き、より印象的な表現となるよう工夫しています。

女子高生紹介



Q/ 女子高での生活が詩作につながった
ところはなんですか。

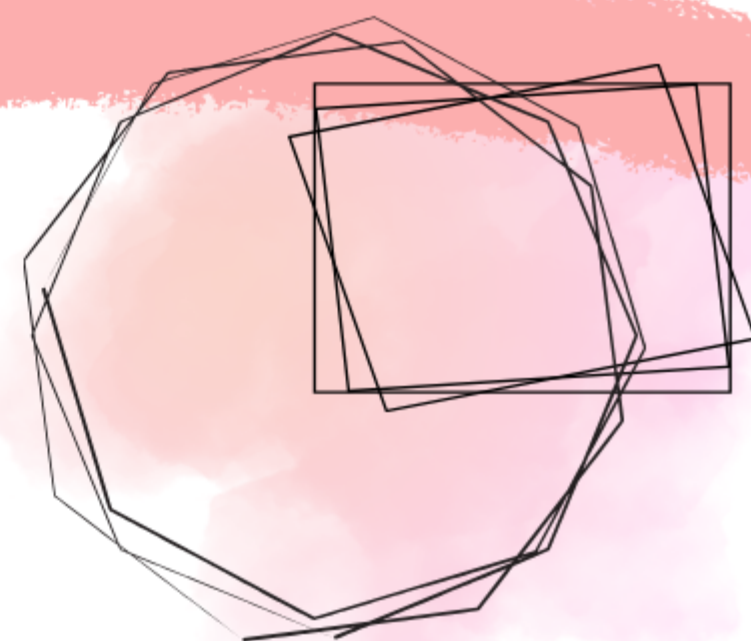
A/ SDGsに関する意見交換の場に女子高生として参加したことで、多角的な観点から社会課題に向きあうことができ、それが試作にも役立ちました。また、女子高の一貫校という特徴により普段は交流することのできない年代の方々と交流ができる良い機会が多くあり、自分の視野を広げる良い機会となったと思います。そして、女子高の国語の授業においても詩を学ぶ機会があり詩に関する知識や感性を育むことができました。詩に限らず一つの文学作品を通してどのように作者の意図が表現されているのかを授業中に教えてくださることで、様々な表現法を学ぶことができました。加えて、化学の授業で地球温暖化について扱う事があり、周囲の友達の示唆に富んだ発言にもとても刺激を受け、新たな着眼点を持てるきっかけになったと感じています。



受賞作。

Q/ あなたの感じる詩の魅力は何ですか。

A/ 私が感じる詩の特徴は2つあります。
1つ目は、詩は作者に対して自由度が大きいことです。詩を作る際に視覚や聴覚、周囲の環境によって、短いフレーズのなかに自分が選び出す言葉が状況により折々異なっているところに魅力があります。また、短いからこそ、一つ一つが持つ言葉の影響力が大きいことにより、詩を作り出すその一瞬一瞬で全体像が変化していくところが魅力的だと感じています。



2つ目は、読者に対しても詩は自由度が大きいところです。自分が作った詩に対し読者の方々が感じ方が異なり、詩の持つ「余白」は読者の方が想像力を膨らませる余地でもあり、楽しさでもあると思います。詩の「余白」を通じて作者と読者で対話ができるところが、詩ならではの特徴であると感じています。

Q/ あなたにとって「良い詩」と
A/ はなんですか。

私にとって詩は普段の日常生活から解離し、新たな世界観を見せてくれる案内人のような存在です。動物や植物などの視点で描こうとする際に、日常生活では持つことのできないような視点を持つことができます。



女子高1年のときの賞状。

